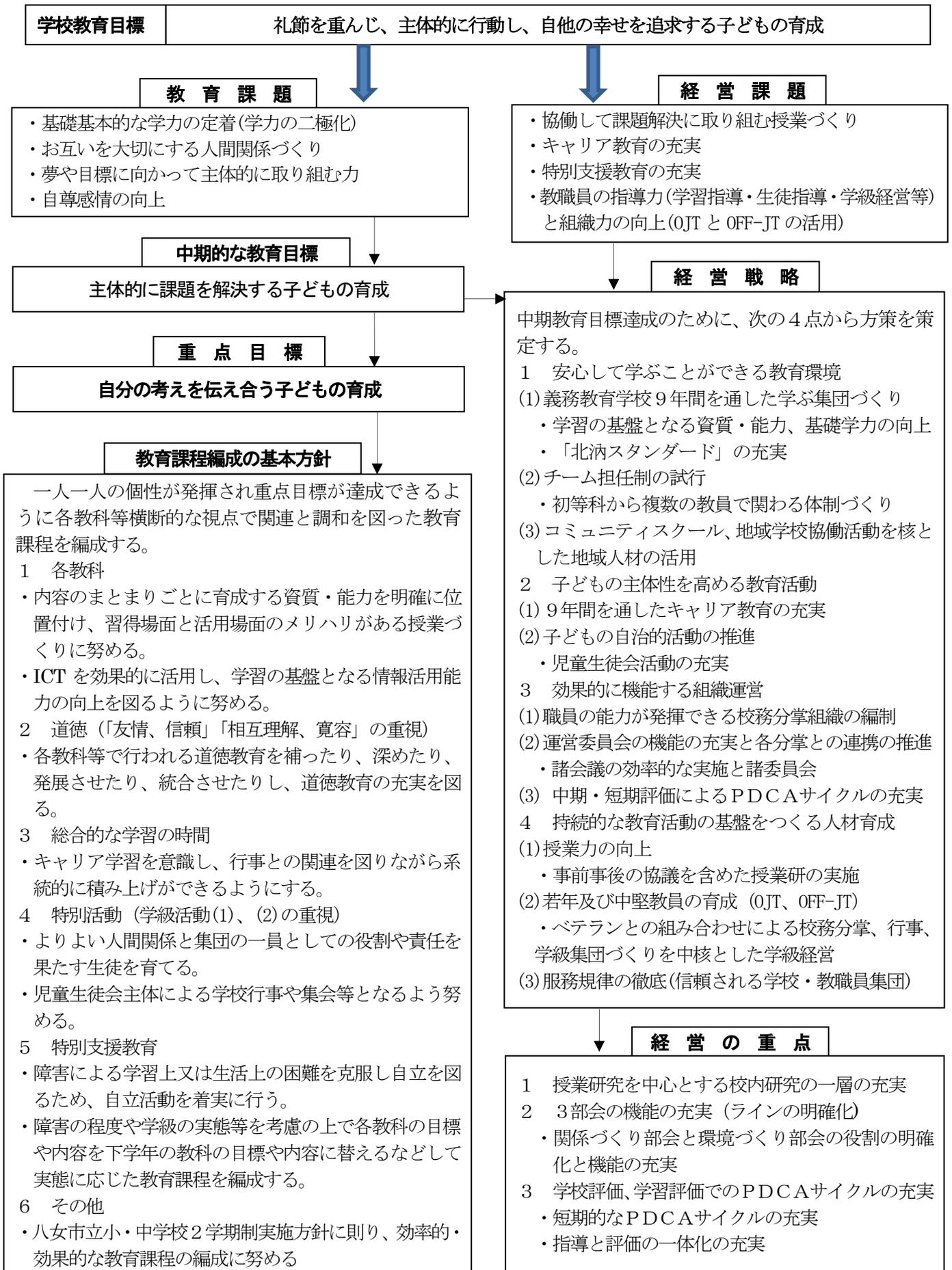


令和6年度 学校経営要綱

八女市立上陽北浜学園



重点目標「自分の考えを伝え合う子どもの育成」について

1 重点目標設定の理由（昨年度の成果と課題から）

昨年度は、重点目標を「自分の考えをつくり伝える子どもの育成」として、教育活動に取り組んだ。その成果として、ICT機器を活用し自分の考えをつくり、その考えを表現できる子どもは多くなった。また、全体としても高い学力を維持している。しかし、授業においては一方的に自分の考えを発表する場面が多く見られ、交流場面において考えを深めるまでには至っていないケースが多い。また、自分の考えに自信を持たずに全体交流で発表できずにいる子どもも固定化してきている。さらに、学力調査の結果からも自分の考えを相手に伝える力等に不十分な面が見られる。【表1】子どもたちは全体的にしっかりと取り組むことができている。そこで、お互いの力を合わせてよりよいものを造りあげていくことができれば教育目標の実現に近づいていくものと考ええる。

【表1】 令和5年度 学力の状況（6・9年：全国学調、8年：県学調）の結果

	問題の内容	本校正答率%	県正答率%
6年 国語	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける	66.7	67.2
8年 国語	自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える	23.8	30.9
9年 国語	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える	35.7	52.7
9年 数学	複数のデータの傾向を比較し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	21.4	34.5

2 本校が目指す「自分の考えを伝え合う子ども」とは

文化庁の国語課題小委員会（2017）において、「伝え合い」を次のように述べてある。

「複数の人が互いの異なりを踏まえた上で、情報や互いの考え、気持ちなどをやり取りし、理解し合い、その理解を深めることである。伝え合いは、①言葉によるもの②言葉の周辺にあるもの（声量や声の質、話す速度など）③いわゆる言葉以外のもの（表情、姿勢、視線など）を組み合わせて行われる。」

これを踏まえ、重点目標における「自分の考えを伝え合う子ども」を以下のように考える。

自分と他者の考えと比べたり言葉等によるやり取りを行ったりして、自分の考えを広げたり深めたりすることでよりよい考えをつくる子ども

3 重点目標達成に向けて

このような子どもを育てるために、以下のような取組を各教科をはじめとするあらゆる教育活動の場に位置付けて実践していく。

1 しっかり伝える（自分の考えを相手にわかるように伝える）

2 しっかり聞く（相手の考えを聞き、自分の考えと比べる）

※ 1、2を往還することで個人あるいは集団がよりよい考えをつくる

授業においては、発言者は聞く側に向かって発言し、聞く側は発言者を向いて聞く。そして、友達の考えと自分の考えを比べ、同じ意見を続けて述べたり違う意見を述べたりしながら話し合いが進み、交流活動によってそれぞれの考えが広まったり深まったりする姿をイメージする。

※成果指標（授業チェックリストの⑧⑨⑭⑮について、平均点をR5より上げる）

取組を具現化するために、校務運営構想、教務運営構想において組織運営や教育課程の編成等と関連を図るとともに、主題研究における研究構想や学力向上プラン等においてさらに計画を具体化していく。